

放課後等デイサービスにおける自己評価結果(公表)

公表: 令和2年3月31日

事業所名 ハートピア出雲ステップ

| | チェック項目 | はい | いいえ | 工夫している点 | 課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標 |
|---------|---|----|-----|--|---|
| 環境・体制整備 | 1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか | 3 | 1 | ・活動場所の設定を細かくエリア分けすることや、個別に行う作業などは時間や場所を指定するなど工夫して環境を調整している。 | ・窮屈に感じる場合は、机の位置を変えたりして工夫している。 |
| | 2 職員の配置数は適切であるか | | 4 | | ・国の基準に対して、職員人数は確保することができているが、個別対応を必要とする児童の増加や丁寧な支援を行うには職員数が不足することがある |
| | 3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか | 4 | | ・バリアフリー化されている。 | |
| 業務改善 | 4 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか | 3 | 1 | | ・月に1回支援会議を行い、月案の活動や療育の方法、支援ツールについて話し合い、各職員が主体性をもって行動できるよう取り組んでいる。 |
| | 5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか | 4 | | | ・保護者向けアンケート調査を実施していることや、施設玄関口に目安箱を設置しており、今後も質の向上の為、行っていく。 |
| | 6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか | 4 | | ・HPで毎年公開しており、今後も行っていく。 | |
| | 7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか | 1 | 3 | | ・評価機関による第三者評価は実施していないが、島根県や市役所の実施指導監査を受け、業務改善や意見交換を行っており、今後も業務改善に努めていく。 |
| | 8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか | 4 | | ・研修委員会があり、その中で研修会の開催や外部研修への参加の回覧を行い、事業所全体で周知している。 | |
| 適切な支援 | 9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか | 4 | | ・年に1回の誕生日月にアセスメントを更新している。 ・定期的(最長6ヶ月以内)に懇談を行い、個別支援計画書の見直しや支援方法について保護者の方及び本人と一緒に見直しを行っている。 | |
| | 10 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか | 4 | | ・日々の振り返りの中で、子どもたちの行動を応用行動分析に基づいて分析し効果的な支援が行えるように努めている。 ・掃除のやり方、道路を横断する時など必要に応じて、アセスメントツールを使用している。 | |
| | 11 活動プログラムの立案をチームで行っているか | 4 | | ・1回/月の支援会議で次月の活動を職員全員で立案している。 | |
| | 12 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか | 4 | | ・月案に沿って活動を行っている。子どものスキルの定着を図る目的で毎年同じ時期に繰り返し行っている活動もある。 | |
| | 13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか | 4 | | ・活動ごとに目標や目的を設定し、支援ツールなど、子どもたちに合わせて準備を行っている。 | |

| | | | | | | |
|--------------|--|--|---|---|--|---|
| の提供 | 14 | 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか | 4 | | ・モニタリングを半年に1回以上実施しており、個別及び集団での様子をふまえて作成している。 | |
| | 15 | 支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか | 3 | 1 | | ・職員の勤務時間が異なるので難しい。支援後に気になったことがあれば都度職員で話はしている。 |
| | 16 | 支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点などを共有しているか | 4 | | ・その日の支援について気づいたことは共有し、活動内容を調整したり、支援方法を変更するなどしている。 | |
| | 17 | 日々の支援に関して正しく記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか | 4 | | ・個別支援計画書の目標にそって、記録をとっている。都度支援を検証し、統一した支援を心がけている。 | |
| | 18 | 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか | 4 | | ・モニタリングを半年に1回行い、子どもの状態に合わせた計画になるよう、職員間話し合っ、見直している。 | |
| | 19 | ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っているか | 4 | | ・放課後等デイサービスガイドラインを意識しながら、活動内容を会議で話し合い決めている。 | |
| 関係機関や保護者との連携 | 20 | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか | 4 | | ・ケース会議には、児童発達支援管理責任者が参加している。また、他事業所とも連携をとりながら支援方法を共有している。 | ・現場の支援を優先せざるを得ない状況では、ケース会議に参加することが難しい場合がある。 |
| | 21 | 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか | 4 | | ・学校の年間計画表を保護者の方に提出して頂いている。 ・送迎時間(下校時刻)の変更は都度保護者の方に連絡を頂いている。トラブルが発生した際は連絡を行っている。 | |
| | 22 | 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか | 3 | 1 | | ・受け入れ実績はないが、受け入れた場合は連絡体制を整えていく。 |
| | 23 | 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか | 4 | | ・ケース会議などに参加し相互理解に努めている。 | |
| | 24 | 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか | 4 | | ・子供と一緒にプロフィールブックを作成し、情報を提供している。希望があれば移行会議に参加し、情報を提供する場合もある。 | |
| | 25 | 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と提携し、助言や研修を受けているか | 2 | 2 | | ・必要に応じて、提携していく。 |
| | 26 | 放課後等児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか | 1 | 3 | ・あったかスクラム事業の中で、地域の行事(ウォークラリーなど)へ参加を促すことや職員も行事に参加している。 | ・子供同士はないが、地域の方々との交流はある。 |
| | 27 | (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか | 4 | | ・ハートピア出雲として参加している。 | |
| | 28 | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか | 4 | | ・降所時に保護者の方へ様子をお伝えするよう努めている。 | ・お迎えのない子どもについては、都度伝えることが難しい部分がある為、必要に応じて直接連絡を取ることやメールなどでお伝えするよう努めていく。 |
| 29 | 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか | 4 | | ・今年度も定期的に家庭療育支援講座を行った。 ・内容としては、職員が講師となり支援方法について伝えることや、先輩保護者さんの講話や保護者の方同士の意見交換などを行った。 | | |

| | | | | | | |
|------------|-------------------------------------|--|---|--|--|--|
| 保護者への説明責任等 | 30 | 運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか | 4 | | ・利用開始の前に見学に来ていただき、実際の療育内容を確認して頂いている。契約時に、施設の取り組みや支援内容、負担額等説明している。 | |
| | 31 | 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか | 4 | | ・お迎え時やメール、電話などで都度対応している。 ・懇談時に家庭などの様子を聞き取っている。 | |
| | 32 | 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか | 4 | | ・家庭療育支援講座などを介して保護者の方のつながりを作ることや話し合いの場を設けている。 ・父親同士の繋がりや相談できる場として父親の会を実施した。 | |
| | 33 | 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか | 4 | | ・療育後の時間や支援会議の中で情報を共有し対応するように努めている。 ・施設の情報誌にて情報を公開している。 | |
| | 34 | 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか | 4 | | ・長期休業中は活動内容等詳しく記載し、連絡は細やかに行っている。 ・定期的にお便りを配布している。 | |
| | 35 | 個人情報に十分注意しているか | 4 | | ・環境整備日を設けて、情報流出がないように心がけている。 | |
| | 36 | 障がいのある子供や保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか | 4 | | ・子どもが気持ちなどを伝えやすいように、子どもの状況に応じてPECSや選択ボード、声掛けなど児童の理解に合わせた支援を行っている。 ・日々のミーティングの中で、保護者の方や利用児のニーズに沿って支援を行うように努めている。 | |
| 37 | 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか | 4 | | ・施設の行事(餅つき会など)に地域の方に参加頂いている。 ・避難訓練の際、訓練のお知らせと合わせて消火器訓練にお誘いしている。 | ・地域の行事に参加することや地域で行われている教室などに参加し、交流を図っており、今後も続けて行っていく。 | |
| 非常時等の対応 | 38 | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか | 4 | | ・マニュアルに沿って職員間でシュミレーションを行っている。 ・情報誌とびあにて、紹介している。 | ・保護者には契約前に重要事項説明書や情報誌とびあなどでお伝えしているが、アンケートでは知らない方も多かった為、今後再度周知を図っていく。 |
| | 39 | 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか | 4 | | ・定期的実施しており、訓練については広報紙などで伝えている。 | |
| | 40 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等適切な対応をしているか | 4 | | ・毎月身体拘束防止会議を行い、虐待防止及び身体拘束防止に努めている。 | |
| | 41 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得たうえで、放課後等デイサービス計画に記載しているか | 4 | | ・毎月の身体拘束防止会議の中で身体拘束について理解を深めている。現在は身体拘束を行うことは無いが、契約時に身体拘束を行う場合には個別支援計画書に記載の上、了承を得た後行うことを保護者の方に説明を行っている。 | |
| | 42 | 食物アレルギーのある子供について、医師の指示書に基づく対応がされているか | 4 | | ・アレルギーの有無はアセスメントや緊急連絡簿などで保護者に確認している。アレルギーがある方に関しては保護者と相談し対応を協議している。 | |
| | 43 | ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか | 4 | | ・法人内で協議し結果を回覧している。 ・都度職員間で情報共有と対応協議を行っている。 | |